

「日々の理科」(第 3638 号) 2024, -7, 23

「浅間山の模型を造る(4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

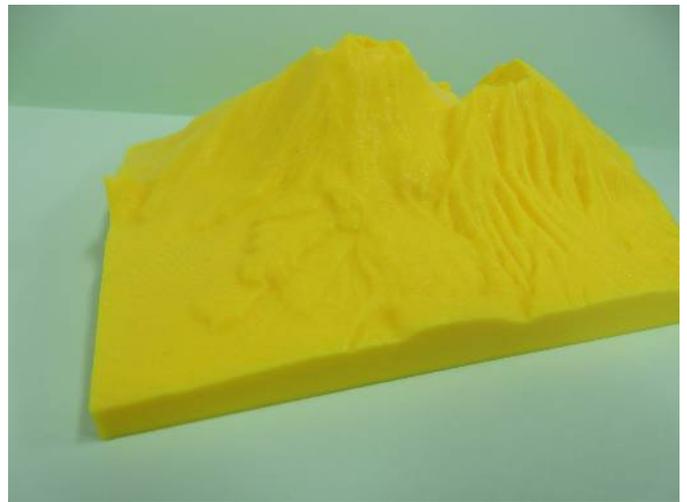
今回使った3Dプリンターは、プリンターそのものみ囲いのない「解放式」で、価格も現在販売されているものの中では最も安価な機種です。「バンブー・ラボ A1 ミニ」という製品名で、現在はキャンペーン中で、バンブー・ラボのホームページから、直接4万円以下で購入可能なものです。



作れる立体物の大きさも比較的小さく、造形速度もやや劣るのですが、造形性能は上位機種に引けをとりません。



これができ上がった「浅間山の立体模型」です。浅間山の特徴である、「二重の外輪山」が見事に表現されています。単色造形なので写真ではわかりにくいと思いますが、右側の外輪山の浸食谷や、山頂火口壁(釜山)の形状、それに側火山(小浅間山、石尊山)もよく表現されています。



これは模型を「北側(北軽井沢側)」から見たところです。有名な「鬼押し出し溶岩流」や「舞台溶岩流」も忠実に再現されています。



今回は高さを2倍に強調した模型としました。しかし出来上がった模型を見ると、高さを強調する必要はなかったと思いました。これは「南側(追分側)」から見たところです。



模型は予想以上の出来でした。日本各地の主な火山の立体模型を揃えたいと思いました。